

カボチャの雌花着生が安定する播種時期と育苗による雌花着生向上

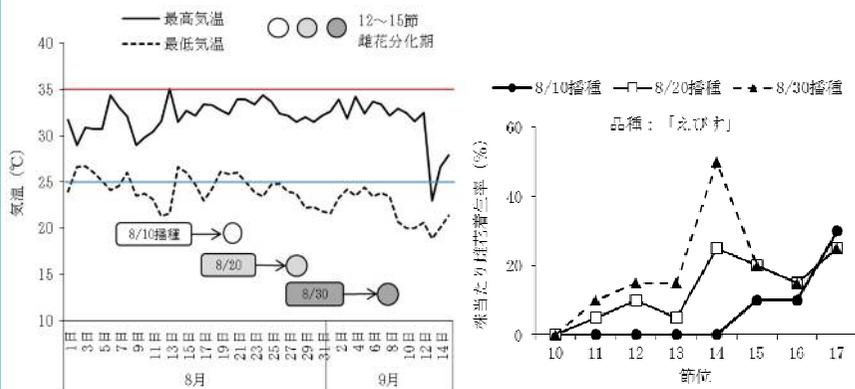
本葉2~3葉期の最低気温が25℃以下で15節までの雌花が増加し、育苗管理により低節位から雌花が着生

背景・目的

- ・近年の地球温暖化に伴い、カボチャの抑制栽培では雌花着生が不安定
- ・草勢が強い場合も雌花着生が低下する傾向
- ・温度、育苗の有無、施肥法を検討し、カボチャの雌花着生が安定する播種時期、栽培法を明確化

成果の内容

- 低節位の雌花着生数および合計雌花着生数は温度が低いほど多い
- 本葉2~3葉期の最低気温が25℃以下になると15節までの雌花数が増加
- セル苗栽培は直播き栽培に比べて低節位から雌花が着生
- 施肥法によって雌花着生の開始節位および雌花着生数に差はない



播種期の違いが雌花着生に及ぼす影響(H26)

育苗の有無および施肥法が雌花着生に及ぼす影響

試験区	雌花着生 開始節位 (節)	雌花着生数 (個/株)
育苗有無	直播き	14.5 a
	セル苗	12.8 b
分散分析		** n. s.
施肥法	基N13	13.3
	基N6.5+追N6.5	14.3
分散分析		n. s. n. s.

注1)**:1%水準で有意差あり, n. s.:有意差なし
 注2)異なるアルファベット間は5%水準で有意差あり
 注3)セル苗は7日間育苗後本葉1.0葉で定植
 注4)品種:「ジェジェJ」

導入メリット

- 抑制栽培における適正な播種期設定が可能
- 雌花着生促進による生産安定



雌花着生促進

着果安定

期待される効果

注)播種が遅くなると果実肥大・でん粉蓄積が不十分になるため、開花~収穫に50~55日で積算温度1,000℃・日を確保できるように留意

抑制カボチャを栽培する際の播種期設定に活用することで、生産経営が安定化

普及対象・範囲
 県内カボチャ生産者